ボロ市通り桜栄会(振) 100周年祝賀会

世田谷区のボロ市通り桜栄会商店街振興組合(島﨑一夫代表理事)は11月7日、JRA馬事公苑内のr-inato kitchenで100周年祝賀会を開催した。式典には組合員や関係者約70人が出席し、節目の年を祝った。

感謝を述べる島﨑代表理事

冒頭であいさつに立った島﨑代表理事は、1925(大正14)年の商業組織の設立から今日までを振り返り、「戦争や経済の変動など幾多の困難を乗り越えられたのは、ひとえに組合員の皆さんと地域の方々の温かいご支援のたまものです」と感謝の言葉を述べた。その上で、「地域に根ざした商店街の意義を見つめなおし、このともしびを次の世代へつないでいく責任を感じています。時代の変化に柔軟に対応しながら、地域の皆さまに愛される商店街づくりを目指してまいります」と今後の抱負を語った。

会場では、商店街の長きに渡る歴史をまとめた動画「100年のあゆみ」の上映や、ビンゴゲームなどが催され、終始和やかな雰囲気に包まれた。

設立は大正14年

式典には近隣の商店街関係者も駆け付けた

冬の風物詩　世田谷のボロ市

世田谷を代表する伝統行事であるボロ市は、戦国時代の1578(天正6)年、当時関東地方を支配していた小田原城主・北条氏政(うじまさ)が開いた楽市を起源とする。毎年12月15・16日と翌年1月15・16日の計4日間、固定日程で開催される。

名前の由来は、江戸時代に農家の作業着の繕いやわらじ用の「ボロ」の取引が盛んに行われていたことにちなむ。現在では、約700軒の露店が並び、骨董類・洋品・植木から玩具・日用雑貨・食料品まで販売品も多彩だ。一日あたり20万人を超える人出でにぎわい、冬の世田谷を彩る風物詩として親しまれている。都の無形民俗文化財にも指定されている。

都営大江戸線延伸

光が丘から北西に3駅誕生へ

練馬区商連の要望実る

東京都が10月15日に、都心部などを走る都営地下鉄大江戸線の延伸計画を公表した。

延伸部分は現在の終点・光が丘駅(練馬区)から北西方向に向けての約4キロメートル。新たな駅も誕生する予定で、いずれも仮称だが「土支田」「大泉町」「大泉学園町」の3駅となっている。

大江戸線の延伸については、全線開業当時より光が丘～東所沢(埼玉県)まで延びる構想があったことに加え、練馬区の北西部が〝鉄道空白地域〟でもあり、国土交通省の審議会答申でも事業化を検討すべき路線と位置付けられてもいた。

また、2022年には、練馬区商店街連合会(江村健二会長)も名を連ねる「大江戸線延伸推進会議」が、延伸事業への早急な着手を求める要望書を都に提出していた。

今回、長年の悲願が達成されるかたちとなったことに対し、要望書を提出した当時の区商連会長だった小川善昭さんは「大変うれしい。ここ数年は延伸への期待から若いファミリー層も増え、地域に活力が戻っているように感じていた」とコメント。さらに、練馬区をはじめとする関係者の尽力に感謝するとともに「周辺商店街の発展のためにも一日も早い延伸開通を願っている」と述べた。

新駅予定地エリア周辺には、たとえば「土支田」駅では高松町造商店会・土支田地蔵通り商店会・共栄商店会、「大泉町」駅と「大泉学園町」駅では北大泉商栄会、大泉学園町商店会がある。

〝千住宿商店街〟発足

北千住駅西口 4商店街が連携

江戸時代から日光街道などの宿場町として栄え、今年開宿400年を迎えた足立区千住に「千住宿商店街」が誕生した。

北千住駅西口エリアの4商店街▽千住本町(振)▽北千住サンロード(振)▽サンロード商店街▽サンロード宿場通り商店街―が連携し、名称を統一した。各商店街は独自の特色を持ち、組織としては存続するが、対外的な発信は「千住宿商店街」に一本化する。

また、4商店街の通りを合わせた全長が「日本一長い宿場町商店街」と位置付けられることから、この強みをブランド化し、「観光資源と生活商店街を融合させたハイブリッドモデル」として訴求していく。

今後は、「北千住といえば千住宿商店街」として認知されることを目指し、観光客や若い世代へのPRを強化する。さらに首都圏、海外からの観光客へと段階的に情報発信を広げていくことも計画しているという。

中小小売商業活性化フォーラム

建築史家・陣内氏　東京の商店街を語る

「多様性は世界で随一」

「令和7年度中小小売商業活性化フォーラム」の第一部では、江戸東京歴史文化のフィールドワークの第一人者であり建築史家の陣内秀信氏が、「都市を読む～東京の商店街・魅力の再発見～」と題した基調講演を行った(写真)。

陣内氏は、比較都市学に基づき、「東京の商店街の多様性は世界で随一」であると述べ、その魅力と未来への可能性を強調した。

まず挙げたのは、現代の商店街のルーツが、江戸時代の「町屋」の構造にあるという点だ。欧州などの海外都市では住まいと商売の場が分離したのに対し、日本は経済活動と家族の生活が一つになっている。この形が顔の見える関係を生み、商店街を地域コミュニティーの核として存続させてきたと解説した。また、商店街の通りは、誰もが集える日本的な広場として機能し、路地や脇道まで活気に満ち、多様性にあふれていることも魅力だと論じた。

講演では、活性化のヒントとして、地元・杉並区の阿佐谷商店街振興組合の事例を示した。「七夕まつり」の伝統継承と、「阿佐谷ジャズストリート」といった新しい試みの両立が、コミュニティーの強さにつながっていると指摘した。

陣内氏は最後に、パリで注目される15分都市(徒歩15分圏内に生活機能が集まる都市計画)に触れ、日本の商店街はそれを古くから実現してきたと説明。その価値が今、世界的に見直されていると述べた。その上で、東京の各商店街は資産や歴史を見つめ直し、アートなど異分野との連携やリノベーションによって、独自の個性をさらに磨いてほしいと締めくくった。

ガス機器清掃万全に

東京消防庁　4～9月 火災報告

東京消防庁が、飲食店における火災に注意を呼びかけている。

同庁の管内で4～9月に起きた火災事例として、厨房や厨房機器の清掃不良が原因となったものや、調理中に火元から離れたことによるものが複数発生していると報告した。

具体的には、清掃不良のガスオーブンを使用した際、排気口に堆積した油かすが加熱されて出火した事例や、高温の揚げかすを放置したことで余熱により発火点に達し、出火に至った事例が確認されている。また、調理中の不注意による火災として、大型ガスこんろにかけた調理中のスープを放置したため、食材が炭化し出火した事例や調理中にこんろから離れたところ、脇に置かれた段ボールが落下し、出火した事例なども報告されている。

過去には、ガスフライヤーの清掃不良により機器内部のパイプが破損し、漏れ出した油がバーナー部分の火で着火して出火したケースもあった。

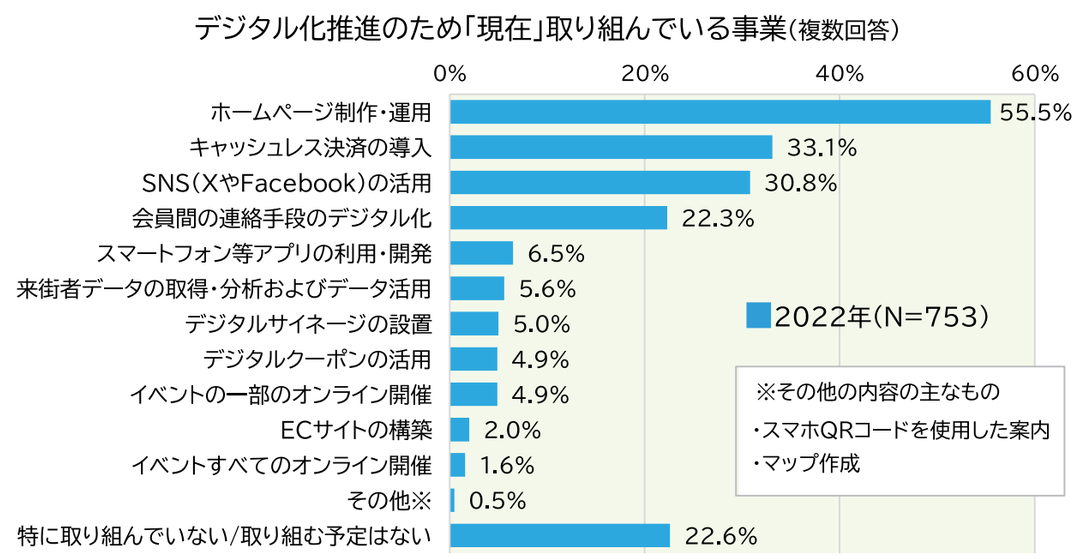
東京消防庁では同様の火災を防ぐため、ガス機器の清掃や点検をこまめに実施することが必要と訴えている。また、ガス機器周辺に可燃物を置かないよう整理整頓に努めることも重要としている。

東京都による商店街実態調査　調査結果のポイント

連載 9

商店街数2374件／回収数1349件（回収率60.5%）／調査時期2022年10月～2023年1月

デジタル化推進のため取り組んでいる事業では「ホームページ制作・運用」が最も多い。都が推進する「キャッシュレス決済の導入」は3割強だった



調査は商店街振興の基礎資料とするため都が1989年から3年に1度実施しているものです

令和7年度　商店街ステップアップ応援事業
TOSHINREN-information
専門家を派遣して
商店街の活性化サポートします！
派遣費用 無料
たとえば
下記のような相談に対して
支援・アドバイスいたします
●売上アップやにぎわい増につながるイベント
●商店街の会計処理・補助金などの資金周り
●キャッシュレス・ホームページ導入などIT化
●多言語化・おもてなしなどインバウンド対応
●障がい者・高齢者用サイン表示や休憩スペースの設置
●加入促進・若手の活躍など組織運営
●商店街の中長期的なありかた・ビジョン
●来街者に安心・安全な商店街づくり
●地域と連携した、街の活性化への景観づくり
●再エネ・省エネ
支援のながれ
お申し込み（WEBにてご案内）▶ 事前打ち合わせ ▶ 日程調整 専門家手配 ▶ 専門家による支援の実施
専門家の派遣は1年度に原則として10回まで可能です。
随時受け付け中 ➡ 東京都商店街振興組合連合会／商店街ステップアップ応援事業事務局　☎03-3547-3787